

2024 年度 製鉄記念八幡看護専門学校
自己点検・自己評価 まとめ

本校の学校評価については、2024 年度も学生による授業評価、実習評価を学年ごとに行い、看護師等養成所の自己点検・自己評価指針に基づき、教員による自己点検・自己評価を行った。2021 年度からは法人の第三者評価委員会を通して、また、ホームページを通して外部への公表を行っている。

I. 教育理念・教育目的（評価平均 2.9）

教育理念は3年課程開始のS33年（1958年）より同じ理念のもと看護教育を行っている。『博愛の精神』はナイチンゲールの提唱する隣人愛、他者愛というものに通ずるもので、教育の中で大切にしている。教育目的については、現代社会のめまぐるしい動きの中で多様な価値観をもつ人々を対象とすることから看護師に求められる倫理観の育成について新しく加えた。今年度、3名教員の入れ替わりがあったが、評価平均は2.9と高いことから教員間での共有はでき、学生への浸透もできていると考える。

II. 教育目標（評価平均 2.8）

教育目標についても全体の評価平均は2.8と高く、教員の理解、共有ができ適切であると言える。今後も教育目標と連動した教育活動を行っていく。卒業時の到達レベルとして期待する卒業生の特性を学生便覧に明示している。

卒業時看護実践力の到達状況	2024 年度卒業生	65 回生実習まとめ参照
国家試験合格状況	2024 年度卒業生	65 回生 100% 学校パフレット掲載

III. 教育課程経営（評価平均 2.4）

「新カリキュラムの基本的な考え方」「各分野の考え方および科目の設定理由」を作成し、教員間での共有と新任教員にはオリエンテーションで提示し説明を行うようにしている。科目・単元構成の項では評価平均：2.6であり、評価基準に則った実践ができている。教育課程評価の体系については今年度評価平均：2.6であり、今年度も個々の学生の単位認定について会議等で協議する機会も多く、教員間で理解、共有することができているためと考える。

教員の教育・研究活動の充実については、評価平均2.2である。各教員の授業時間（平均78.7時間/年）、実習時間数（平均28週/年）は年間計画の中で表示している。教員の異動や退職により授業配分や担当領域が変更する場合もあるが、大きな講義担当科目の変更がないようにしている。授業準備の時間の確保は各教員によって生活背景も異なり一定の基準は設けていない。教員個々のスケジュールの中で準備を行うが、業務の過密さによって時間外労働時間での対応とする場合もある。近年、働き方改革によりタスクシフトも推進され、事務業務の教務事務への移行や業務整理を行うよう取り組んでいるが、十分ではない。2025年度はさらに教育DXへの取り組みも強化することで授業の準備時間を確保できるよう努めていく。

教員の自己研鑽としては、今年度オンライン研修を全員で受講した。期間が長期間あり、自宅で好きな時間に受講できることからこのスタイルも適切だと言える。教務主任が研修参加を呼びかけ、意識的に取り組めた。教務図書購入についても推薦図書を教務主任が教員に声かけを行っている。教育者として教員のレベルアップを図るためにも教員の大学編入、大学院進学を推奨、中堅教員以上は組織における管理的視点を養うために看護管理者教育課程ファーストレベルの受講を推奨している。

学生の看護実践体験の保障については、評価平均2.6であった。主な実習施設である製鉄記念八幡病院看護部が毎月、臨地実習指導者会議を開催している。その中で臨地実習指導者と教員が情報共有を行い、協力体制を強化している。臨地実習指導者講習会を今年度は第1回第2回とシリーズ化し、行った。『看護を教える』臨地実習指導について考える機会とすることができた。

IV. 教授・学習・評価過程（評価平均 2.5）

全授業科目に対して授業評価を行った。集計した評価結果は学内に 1 週間掲示している。学外講師に対しては、必要時口頭での報告を行い、学内教員は自己の評価結果をもとに授業改善を行っている。単位認定に関する評価に関しては評価平均：2.7 とであったが、学生及び教育活動における評価について評価平均：2.0 と低値であった。行事ごとにアンケートはとっているが、講義・実習以外での学生自身の評価や教育活動を多面的高めに評価し、整理する体制も検討が必要である。授業の展開過程に関して全体的に評価は高いが、学生の学びの質を向上するための授業方法の工夫は十分ではないと考える。シミュレーション教育、PBL、反転授業等科目に応じた授業方法を工夫していかなければならない。

V. 経営・管理過程（評価平均 2.4）

経営・管理過程に関する評価は例年、全体的に他の項よりも評価が低く、学校組織および運営に関する教員の理解が図れていない結果となっている。着手できていないが、管理者だけでなく教員の経験年数を問わず、誰もが理解しておくべき事柄を整理し、共有しておく必要がある。次年度は着手したい。

学校施設については老朽化が進む中、今年度も必要か所の部分的な修復で対応してきた。2025 年度より男子学生の募集を開始するため男子更衣室の改修工事を終え、受け入れの準備は完了した。今年度は学内における盗難が 3 回発生しており、外部からの侵入の抑止力とするため防犯カメラの設置を行った。

学生への支援として、アドバイザー制により学生個々の状況に応じた教育支援体制を強化している。個別に対応が必要なケースは増えているものの、教員間での共有や法人の臨床心理士からの支援を受け、対応できている。3 年次は特に学習面に力を入れ、アドバイザーの学習支援の他、進路・国試担当の教員は年間計画で学生の学習支援を強化している。毎年高い合格率を維持できていることからこの取り組みは評価できる。

経済的な支援では、学生支援機構の奨学金に加え、2022 年度より高等教育の就学支援新制度の認可を受け、運用を始めた。法人の奨学金制度も 2024 年度からは貸与額が 40 万円に増額され、半数の学生が利用している。

自己点検・自己評価体制については 2023 年度より全教員へ看護学校における自己点検・自己評価の意義と目的について説明を行い、全員で評価を行っている。評価結果をもとに評価平均値が 2.0 未満の項目に関しては今後フィードバックを行っていく。

VI. 入学（評価平均 2.5）

18 歳人口の減少の中、看護系大学の増設、近郊の看護学校との競合により入学生が定員を満たせていない年が続いたため、男子学生の募集および公募推薦制度を導入し、受験生確保を行った。募集活動として、広報担当教員を中心にホームページリニューアル、入学案内の作成、オープンキャンパスの開催、高校訪問に取り組んだ。高校訪問については副学校長、教務主任で北九州市内全域、京築、筑豊、山口県（下関市）、大分県全 57 校訪問を実施した。男女共学や学校推薦制度に関心を持つてくれる高校も多かった。結果、2025 年度新入生は 42 名、男子 4 名確保できた。

VII. 卒業・就職・進学（評価平均 2.1）

助産師進学者は、2024 年度 1 名 大学編入者はなし
2024 年度 65 回生 就職状況 卒業生 41 名

製鉄記念八幡病院	30 名
他 外部就職	10 名
助産師進学	1 名

卒業生 30 名が製鉄記念八幡病院に就職した。学校としては、相談窓口としていつでも卒業生が来校できるようにしている。8 月にホームカミングデイを開催し、卒業後の状況の把握を行った。卒業時、副学校長面接を行い卒業生による評価を実施しているが、データ分析までは行えていない。卒業後の活動状況に関しても系統立てての把握はできていない。しかしながら同窓会若竹会の会員追跡により全国各地で同窓生が活躍している様子は把握できている。進学、資格取得、大学編入、大学院入学支援は実施しているが、近郊の助産師学校が 1 校募集停止したため、助産師進学が難化する傾向にある。

VIII. 地域社会／国際交流（評価平均 1.8）

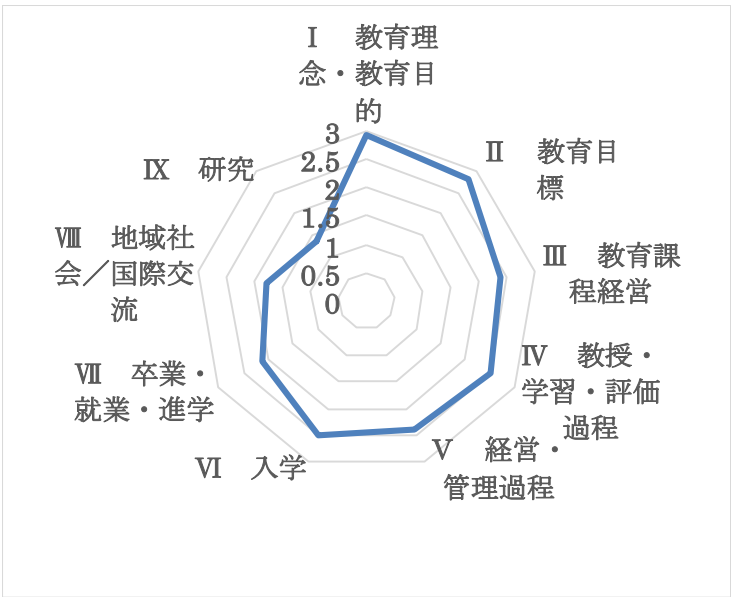
2024 年度は前年度よりさらに教育活動を拡大することができた。今年度も法人が行う地域貢献活動への参加を「地域貢献の日」として年間のカリキュラムに組み込み、学生の行う地域活動として定着できた。しかしながら、その先の学生主体の活動にまで発展させていくことはできていない。まずは教員が率先して働きかけを工夫することから始めていきたい。

また、国際交流についても教育研修で JICA の研修（2 年に 1 回）を行っているが、さらに発展させた取り組みに着手できていない。異文化における看護、看護における国際協力等の内容を取り込みよりグローバルな視点で学ばせることも必要である。

IX. 研究（評価平均 1.4）

2024 年度も学校として研究活動には取り組めず、学会での発表や雑誌への投稿には至っていない。実践報告は教員 1 名が 1 例まとめるよう目標を設定したが、やはり実践には至らなかった。他への発信だけでなく、自己の教育活動を可視化するために是非、教員個々が自己のテーマを決め教育実践報告をまとめられるよう目標に掲げ取り組んでいけるようにしたい。

2024 年度 看護師等養成所の自己点検・自己評価指針に基づく評価



I	教育理念・教育目的	2.9
II	教育目標	2.8
III	教育課程経営	2.4
IV	教授・学習・評価過程	2.5
V	経営・管理過程	2.4
VI	入学	2.5
VII	卒業・就業・進学	2.1
VIII	地域社会／国際交流	1.8
IX	研究	1.4

↓
↓
↓